日修協

危機管理を掘り下げ

教育旅行シンポジウム開催

日本修学旅行協会（日修協、阿部充夫会長）は8月24日、「創立60周年記念式典」と「第8回教育旅行シンポジウム」を東京・飯田橋のホテルグランドパレスで開いた。シンポジウムでは、東日本大震災や原発事故により意識が高まっている修学旅行の危機管理などをテーマにして、学校や受け入れ地域、旅行会社から選ばれたパネリストが修学旅行の危機管理を論じたパネルディスカッションでは、東京都立三鷹中等教育学校・三鷹高等学校長の仙田直人氏が、「大震災を受けて今年度、都立高校はすべて高校の施設を使って1泊2日で防災訓練をしている。これは学校で起きた時の訓練だが、修学旅行先でも同じ行動をとれるようにしたい」と述べた。

JTB旅行事業本部教育旅行担当部長の山﨑誠氏は、旅行会社の対応として「何か起こってからではなくて、事前の対策をどう行うかが大きな課題だ」と述べた。一方、学校側には①正しい知識と十分な準備②リスクに見舞われた場合、自分の身は自分で守る③保険の加入――を求めた。

前東北観光推進機構教育旅行アドバイザーの小椋唯一氏は「被災地・福島の現場を一度訪ねて、見てほしい。生き延びる力のヒントがたくさんある」と学校関係者らに事例先としての福島への来訪を呼びかけた。

このほかパネリストとして、東京都板橋区立板橋第五中学校長の小川達夫、京都市産業観光局観光MICE推進室MICE戦略推進担当部長の九鬼令和、長崎県観光連盟専務理事の土井正隆の3氏も登壇。日修協の河上一雄理事長がコーディネーターを務めた。

河上理事長をコーディネーターにシンポジウム

災害や事故の対応策などに関して意見を語った。

式典で阿部会長は「時代や社会の変化と共に修学旅行もかなり変わってきているが、修学旅行の教育に果たす役割は基本的には変わらない。学校教育の一環という本質から崩れないよう（日修協は）働き掛けを継続していく」と活動方針を明示。また、野口正太郎事務局長がこの10年間の教育旅行の状況を説明した。

教育旅行で注目の旅行先

長野県飯山市
日本のふるさと

長野県飯山市では、15年春に北陸新幹線の金沢延伸に伴って飯山駅が開業する。首都圏や北陸圏からのアクセスが格段に向上することから、信州いいやま観光局は「日本のふるさと信州いいやまで心に残る学習旅行を、地域全体でサポート」とPRを展開している。

同市は長野県北部に位置し、唱歌「ふるさと」の作詞家で有名な高野辰之氏ゆかりの日本のふるさとと呼ぶにふさわしい地域だ。グリーンシーズンは農業体験、林業体験、トレッキング、カヌー、ラフティングなどが楽しめ、冬はウィンタースポーツ、豪雪地帯を活用した雪国体験などが好評だ。

宿泊施設は、大型のリゾートホテルからペンション、家民宿の分宿タイプとバリエーションが豊富。とくに分宿タイプは宿の「おとうさん、おかあさんとのコミュニケーション、触れあいが魅力となっており、卒業後のリピーターも後を絶たない」（同観光局）と魅力をアピールしている。

冬の雪かき体験

自然環境教育を提案
――長野県山ノ内町

志賀高原、北志賀高原、湯田中渋温泉郷で知られる長野県山ノ内町は、観光旅行はもとより、教育旅行の目的地としても人気が高い。魅力は自然環境を生かした体験プログラム。特に志賀高原は、ユネスコ（国連教育科学文化機関）が自然環境教育の適地と認めた「ユネスコ・エコパーク」の登録地域となっている。

志賀高原や北志賀高原なども充実している。

教育旅行のテーマの1つとして自然や環境が注目を集める中、山ノ内町がPRを強化しているのが、ユネスコ・エコパークに登録されている志賀高原の自然環境に触れる綾（宮崎県）などの5カ所。

志賀高原には原生的な森林が残り、亜高山性針葉樹林には大小の湖沼、湿原が点在。住民が守ってきた貴重な自然を児童、生徒に知ってもらおうと、山ノ内町ではトレッキングや自然散策を提案している。教育旅行には志賀高原ガイド組合（日本山岳ガイド協会、志賀高原観光協会の公認団体）がガイドを派遣する。

山ノ内町観光商工課では「ユネスコ・エコパークの世間での認知度は高いとは言えないが、自然環境教育の場として国際的に評価されている。学校や旅行会社の担当者へのPRに努めていきたい」としている。

ユネスコ・エコパークの登録地域、志賀高原

阿阪神淡路の記憶と防災
――人と防災未来センター

阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター

神戸市中央区の「阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター」は、その名称の通り、阪神・淡路大震災の記憶と教訓を後世に伝えるために2002年に開設され、今年10周年を迎えた。

阪神・淡路大震災発生の瞬間の再現映像「5・46の衝撃（1・17シアター）」、復興に至るまでのまちと人の様子を描いたドキュメンタリードラマ「このまちと生きる2（大震災ホール）」などの映像上映の他、被災者から提供された震災関連展示フロア内で無料配布されているので、今後のボランティアによる震災体験の語り継ぎなどが行われている。

また、阪神・淡路大震災に関することだけではなく、これからの防災、減災を学ぶための実験やゲームも用意されている。人と防災未来センターオリジナルの「減災グッズチェックリスト」も備えに役立てたい。

今年度は、東日本大震災被災地の1カ月後、半年後、1年後を収録したドキュメンタリー3D作品「東日本大震災　津波の傷跡」の上映を行っており、震災から1年以上経った今だからこそ、改めて多くの人に見てもらいたい映像となっている。

昨今、日本だけでなく世界各地で甚大な被害をもたらす自然災害が数多く起こっている。いつでも、どこでも、誰でも、災害に遭う可能性があるからこそ、もしもの時の備えを考えるきっかけとして、一度来館してみる価値のある施設ではないだろうか。

大震災の記憶を残す展示コーナー（西3階）

映画を通し文化体験
――東映太秦映画村
京都の伝統産業など多様

東映太秦映画村（京都市右京区）では、1975年のオープン以来、最大規模となるリニューアルを行っている。昨年9月に3つのアトラクション「からくり忍者屋敷」「東映アニメミュージアム」「浮世絵美術館（復刻版）」などがオープン。

からくり忍者屋敷は体験型のアトラクション。「どんでん返し」や「隠し通路」など、たくさんのからくりを利用して忍者屋敷の出口を目指す。

アニメミュージアムは、東映アニメの歴史を貴重なポスターやセル画集などで紹介。アフレコ体験やパソコンを使った塗り絵もある。

浮世絵美術館は、北斎、歌麿などの浮世絵復刻画を80数点展示。美人画、役者絵、風景画など体系的に紹介する。江戸文化や日本の美に触れられる。

今年3月には「史上最恐のお化け屋敷」、7月にアトラクション「まるごととびだす超立体3D60シアター」がオープンした。

JR太秦駅側に映画村入り口（撮影所口）を新設。個人客用の入り口で、団体客は従来の正面入り口のみ。JR利用の班別研修で映画村を利用する際により便利になった。

修学旅行生には、体験学習プログラムが人気。「見る・作る・学ぶ・参加する」をテーマに、京扇子、京うちわの手描き体験のほか、清水焼絵付け体験などがある。

班別研修用には、少人数用のメニューとして、ろくろ体験（1回につき2人まで）、清水焼絵付け体験（1回につき12人まで）、京扇子絵付け体験（1回につき10人まで）がある。

ほかにも「殺陣（たて）講座」などの貴重な体験ができるものもある。

「寺子屋おもしろ体験」は、江戸庶民の生活の知恵にスポットを当てた。映画製作用の小道具を使い、映画村の俳優が時代劇の扮装で講師を務める。「大江戸暮らし編」と「大江戸環境編　江戸時代は循環型社会」の2コースがある。

パンフレットの郵送や申し込みなど体験学習に関する問い合わせは、東映太秦映画村（☎075・864・7716）まで。

からくり忍者屋敷

清水焼絵付け体験

浮世絵美術館

「トリックアート」の不思議な世界を体験

那須とりっくあーとぴあ
展示がさらに充実
見て、触れて、学べる美術館

平面の絵が飛び出したり、見る角度により違う雰囲気の絵に見えたりする「トリックアート」。その中心となる施設（常設館）が栃木県那須町と東京・お台場にあり、中学校をはじめとする修学旅行で注目のスポットとなっている。作品を見たり、触れたり、写真に撮ったりして楽しめるのはもちろん、那須には日本で唯一という制作工房も併設しており、「美術の道を志す生徒の学習の参考になる」と、施設を運営するエス・デー（本社＝栃木県那須町）では多くの利用を呼びかけている。

那須町の常設施設「那須とりっくあーとぴあ」「トリックアート迷宮?館」「ミケランジェロ館」の3つは、「トリックアートの館」の棟からなる。今年4月28日には「迷宮?館」をリニューアルオープン。展示内容をさらに充実させた。

「迷宮?館」のテーマである「ファンタジーの世界」をより深く体験できるように構成した。

「天使の六角塔ゾーン」「メルヘンゾーン」「イリュージョンゾーン」など9つのゾーンのうち、メーンの六角塔ゾーンを改装。高さ12㍍の天井に向かう「らせん階段」と大床絵を新しくした。床絵はリアルな雲とメルヘンチックな天使、そしてらせん階段に変化するバラの木を描いたもの。「階段を上り、地面を眺めると、まるで天空から下界をのぞいているような感覚になる」と同館。

「トリックアートの館」は、ペンションを改装して作っており、建物の構造を利用して、約60種類のトリックアートのいたずらを随所に隠している。

「ミケランジェロ館」は、ルネサンスの巨匠、ミケランジェロやダヴィンチ、ラファエロの名作とトリックアートを融合。天井画で知られるバチカンの世界遺産「システィーナ礼拝堂」を5分の3サイズで忠実に再現した作品が目玉だ。

施設にはトリックアートの作者たちが新作を制作する工房を併設。来館者は制作の生の現場を見学できる。「感受性の高い中・高生に、絵画にふれる楽しみを感じてもらいたい」と、体験イベントも随時開催している。

トリックアートは、エス・デーの創設者、故剣重和宗氏（1940～1997）が世に広めた。同社では「美術品は一部の人たちのものではない。絵心のある人もない人も、そして大人も子どもも誰もが楽しめるようなもっと身近なものであるべきだ」との剣重氏の遺志を継承。

館内の作品は手をふれたり、写真を撮ったりすることが自由にできる。

施設は3～4年に一度、今回のような大規模リニューアルを行うと同時に、作品の入れ替えなど、小規模リニューアルを毎年行っており、リピーターも楽しめる内容になっている。

同社は「多くの人に絵画への関心を持ってもらう」ことを社是とし、作品を広く提供。全国各地で常設館や特別展の開催に協力している。

▽那須とりっくあーとぴあは、栃木県那須郡那須町大字高久甲上ノ台576０。☎0287・62・8388（代表）。年中無休で、午前9時半から午後6時まで営業（10～3月は午後5時まで、8月は午前9時から）。入場料各館大人1300円、小中学生800円（2館、3館共通チケット、団体割引あり）。

ユニークなお化けのトリックアート

絵画から手が飛び出しているように見える

トリックアートの工房

東京・お台場に昨年7月16日、「東京トリックアート迷宮館」がオープンした。オープン以来、若者や家族連れを中心ににぎわっている。

お台場の常設館も人気

お台場の複合施設「デックス東京ビーチ」4階にあり、迷路のような館内は「江戸」をテーマに5つのエリアで構成。江戸にタイムスリップしたような感覚でトリックアートを楽しんでもらう趣向だ。常時約45点のアートを展示している。

「江戸エリア」は江戸の宿場町や町人町を再現したエリア。壁に描かれた「看板娘」はスマートなプロポーションだが、違う角度で見るとなぜかふくよかな体型に変わってしまう。

「怖くないお化け屋敷」エリアでは、どこか間抜けで憎めない表情をしたお化けたちが来場者を待ち構えている。まるでお化けに食べられているような、お化けとのツーショット写真を撮れるのも楽しい。

今年の7月には作品の人気投票を行い、その結果をもとに3作品の入れ替えを実施。何度来ても楽しめるようにしている。

東京で人気のエリアお台場にあって、外せないスポットになりそうだ。

▽東京トリックアート迷宮館は、東京都港区台場1―6―1、デックス東京ビーチ4階。☎03・3599・5191。不定休で、午前11時から午後9時まで営業。入場料大人900円、中学生以下600円。

映画村の体験学習
本物と自然と昔にこだわる

清水焼絵付け体験 ＜【素焼】陶芸作家の岡本和芳さんの指導により、生地に絵付けをしていただきます。【京焼】白色系に焼き上げた器やグラスに３色のカラーを使って絵付けをしていただきます。

殺陣（たて）講座　東映京都撮影所の殺陣師が立ち回りの形をお教えします。もちろん安全性は十分配慮しています。木刀を使って時代劇を体験してください。

京扇子・京うちわ手描き体験　舞踊や茶道にも欠かせない扇子やうちわは京都の伝統産業のひとつです。専門家の指導のもとにオリジナルの絵柄を描いて楽しんでください。

※体験学習は全て有料・要予約となります。

体験学習のパンフレット・DVDのご請求、お問い合わせ、お申し込みはこちらまで!

TOEI KYOTO STUDIO PARK
東映太秦映画村
http://www.toei-eigamura.com

〒616-8586　京都市右京区太秦東蜂岡町10番地
お問い合わせ ✆075-864-7716　ナビダイヤル ✆0570-064349　催し物ガイド ✆075-864-7788
営業時間 /9:00～17:00（3月～11月）　9:00～18:00（3月～9月の土・日・祝）
9:30～16:30（12月～2月）　9:30～17:00（12月～2月の土・日・祝）
休村日 /2013年1月18日～22日